



社会医療法人
同仁会
Dojinkai
Social Medical Corporation

私たちの理念「一視同仁」

同仁会報みみはら

2016年7月1日発行

第45号



発行 社会医療法人同仁会 同仁会報編集委員会 〒590-0824 堺市堺区老松町2丁58-1
TEL 072(244)7260 FAX 072(247)0165 URL <http://www.mimihara.or.jp> (同仁会HP)

子どもの現状から見えてくる 親の貧困、国の貧困を知る

子どもの貧困問題を考えるシンポジウム



みみはらホールで開かれたシンポジウム

2013年に国が「子どもの貧困対策法」を制定、堺市でも子ども食堂（※）に予算がつく中、この企画の実行委員会がスタートしました。初めての取り組みということで、まず子どもの実態について知ろうと、5月22日みみはらホールを会場に、シンポジウムが開催され、115人が参加しました。

6人のシンポジストが、それぞれの立場から子どもの貧困について発言しました。子どもの貧困の背景には、親の貧困やギャンブル依存症、アルコール依存症など抱えている問題が多様であること、その上、親からの虐待やネグレクト

- シンポジスト**
- 勝村 謙司氏 (小学校教諭)
 - 館 優子氏 (のびのびルーム指導員)
 - 源中 卓馬氏 (堺市生活と健康を守る会)
 - 大森 順子氏 (女性のための離婚相談まえむきIPO/公益社団法人 こども情報研究センター/NPO法人子どもセンターぬっく)
 - 高橋 則夫氏 (堺市職員労働組合)
 - 三浦 香 (耳原総合病院小児科病棟看護師長)

ト、性暴力などの実態も明らかになりました。

小学校の先生は子どもの作文から見えてくる実態を語り、堺市生活と健康を守る会は「日々の相談で一番多いのは、やはり貧困問題で、貧困の一番怖いのは孤立することだ」と強調。

NPO法人の方からは、特に18歳〜20代の女性の生きづらさの実態として「性産業の敷居が低くなっていること。デリヘル（出張風俗）の世界へ簡単に入ってしまうこと。その業界では、住まいの紹介や借金の返し方、保育所のあつせんなども、親身に相談にのってくれる相談体制が整っている」という衝撃的な発言がありました。

学童保育指導員からは、2つの教室に1000人の子どものたちが押し込まれている実態や子どもの様子からダイレクトに親の実態が見えてくること、堺市職員労働組合の方からは「生活保護ハッシングがあるが、シングルマザーの世

（※）子ども食堂 経済的な理由などで十分な食事がとれない子どもに、無料で温かい料理を提供する場としてボランティア団体や自治体での取り組みが広がっている。

帯は、車の保有問題などがネックで生活保護を利用してきていない、保護基準以下の生活を余儀なくされている」と資料も使って説明されました。

また、小児科病棟の三浦師長は入院患者・家族を通しての事例をあげて生活背景を見ることの重要性を訴えました。

子どもたちの置かれている現状とその背景をしっかりとらみ、どのような支援が必要なのか、何ができるのかを考え、アクションを起こすことが重要との理解が深まりました。

最後に「今回だけで終わりにせず、これから何が出来るのか？相談しながら取り組んでいきましょう」と締めくくられました。

耳原総合病院小児科 三浦師長の発言

病気は採血や検査で数値化され診断がつき治療できます。でも最新鋭の320列CTでも「貧困」と映し出されるわけじゃない。見えてこない実態が貧困問題をさらに複雑にしています。「お金がないから助けて」って自分から話してくれる人に私は今まで出会ったことがありません。私たち医療従事者から見て対応に困る患者さんは、実は経済的に困っている患者さんであるという視点を持つ必要があります。

こんにちは！ 同仁会グループ 事業所だよ！

〈営業時間〉

11:00~17:00
土・日曜日、祝日も
営業しています
ラストオーダー
閉店30分前

「自然食Cafeグラン」
(堺東駅そば) 同様、産地直送の無農薬・減農薬野菜を使って、店内で手作りすることわりはそのままに、気軽に利用できるセルフスタイルのお店です。
ランチのほか、天然だしのうどんやカフェメニューも。病院の中ですが、「グランの食堂」だけの利用も可能



日替りプレートの1例



です。ご来店、お待ちしております。



グランの食堂
耳原総合病院店



正面玄関入ってすぐ左に「グランの食堂」の入り口があります

〒590-8505 堺市堺区協和町4-465 耳原総合病院1階

こだわりの無農薬・減農薬・手作り
ぜひ、お気軽にご利用ください